

# てこな・ミュージック・ジャーナル

～「音楽事務所  
市川市文化振興財団」～

2009年1月、あけましておめでとうございます。でも仕事上はまだ年度末、そこで今回は3月までの財団事業で特記すべきものを書いてみたいと思います。財団は今、外に事業を広げています。市との恒例となった協同事業がまず1月5日の議場コンサートです。昨年好評を博しましたので、今回も新人演奏会オーディションの合格者に演奏をお願いすることになっています。出演していただくのは、ソプラノ、メゾソプラノ、バリトン、そしてオーボエとピアノです。いずれも平成20年度の新人演奏会の出演者に選ばれた方々で、曲目も日本歌曲からオペラのアリアなど、親しみやすく新春に相応しい華やかで雰囲気になるはずですよ。

## 小学校でミニコンサート

今年さらに力を入れていきたい事業の一つに、学校での活動というものがあります。これまでお寺、公民館、高齢者施設などさまざまなところで演奏会をしてきましたが、小学生がクラシック音楽に親しむ機会を提供しよう、楽器体験付きミニ・コンサートの出前を始めることにしました。最初の試みは2008年11月14日(金)、新井小学校にオーボエ、クラリネット、ピアノの若手奏者とともに向きました。会場は体育館。子供たち140人ほどが、興味津々な様子で待ち受けていました。財団は体験用のクラリネットとオーボエのリードを用意しました。リードというのは、あしの茎をけずった管の口のところに差し込んで、音が出るようにする薄い板です。子供たちが普段慣れ親しんでいる管楽器というリコーダーですが、でも新井小学校にはブラスバンドがあるので、リコーダー以外の管楽器を手にしたことがある子供たちも少なくありません。ただオーボエは未経験なのでぜひ、と学校側からの要望でした。

## 新人演奏家派遣事業

このような小学校出前コンサートで活躍していただくのも市川市文化振興財団新人演奏会オーディションの合格者たちです。ほとんどが音大生なので、教育実習のような経験になりますが、100人以上の子供たちが目の前という今回はちょっとしたプレッシャーだったかもしれません。熱心な楽器説明、そして聴き応えのある演奏。子供たちは本

市川市文化振興財団 音楽総合プロデューサー 小坂 裕子

当に真剣に、それでいて楽しそうに聴いていました。楽器体験コーナーでは、オーボエを初めて手にした女の子がなかなか音が出なくて、とうとう泣き出してしまいました。するとクラリネット奏者の倉内さんがすかさず、最初は音は出ないものなのよと優しく話しかけてくれました。帰りがけ、奏者の乗った車に駆け寄ってきた子供たちの顔には、楽しかったという感想が表れていました。

## 東庄町のために演奏会企画 ～プロ・オーケストラ派遣事業～

2月9日には市川から東関東道を2時間ほど車でひた走って、やっと到着する東庄町で演奏会をします。鈴木織江さん指揮の東京フィルで、内容はモーツァルトの交響曲などです。利根川沿いの肥沃な田園地帯。インターを降りてしばらく走ると、やがて赤いとんがり屋根のある建物が見えてきます。広い校庭には元気な子供たちの声。その横にあるのが町役場と文化会館です。町民は4500人ほど。町役場に会場があるのですが、ホールと言っても床はフラットで、備え付けの椅子はありません。会場の正式名称は東庄町公民館。舞台は講堂のような高さで、音の響きを良くするための「塀」のような、いわゆる反響版もありません。

## ダンスホール?

床、壁、天井すべてが木製の古いホールはけっこう音響はいいようです。ちょっと興味深いのは、日常的にこのホールが利用されているのは、ダンスのためだということです。壁にミラー・ボールを見つけて、思わず微笑んでしまいました。ダンスに慣れ親しんだ床の上に椅子を450個ほど並べて、舞台一杯にオーケストラ。指揮者のための指揮台も譜面台も市川から運びます。

## 国際色豊かな演奏会企画 ～インドネシア 中国...～

このように演奏会をさまざまな場所で実施するとともに、国際都市市川に相応しい事業も財団の仕事です。例えば、2008年12月26日に日本とインドネシア国交50周年記念コンサートを市川市から依頼されています。場所は市川市文化会館小ホール、インドネシアガムラン音楽と舞踊演奏会です。さらに2009年2月には中国との異文化交流公演を企画しています。このようにさまざまな方面からの要望に応えられる市川市文化振興財団であることを誇りに、2009年も頑張っていくつもりです。今年もどうぞよろしく願いいたします。